

# 高田学苑に災害備蓄品

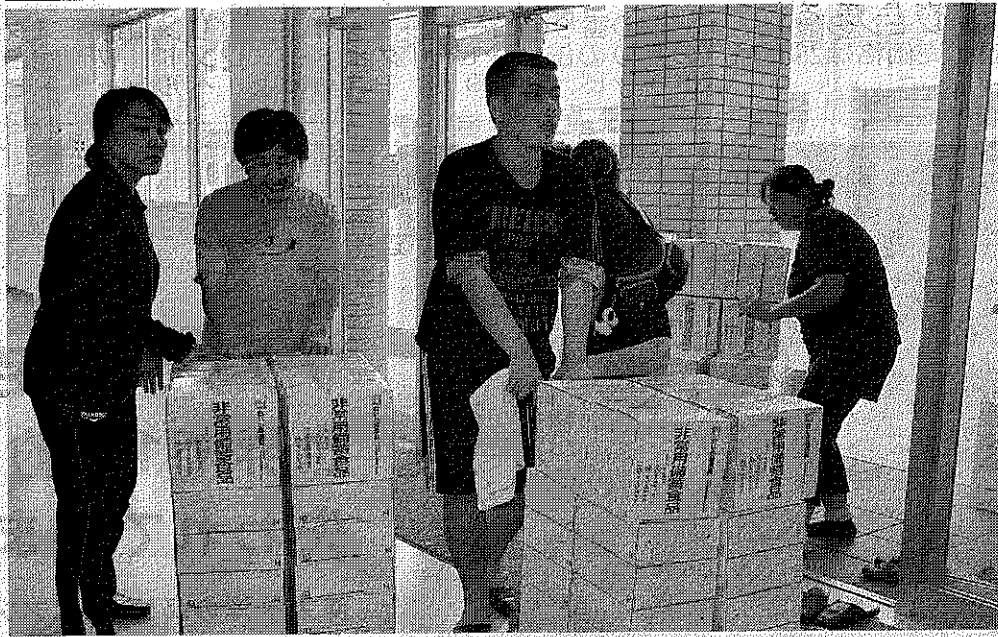
## 津、障害者らが3210箱納入

【津】津市大里窪田町の私立高田学苑で二十九日、災害用備蓄品「白い小箱」の納入作業があった。県内の障害者支援施設の通所者らが、中学・高校・短大分計三千二百十箱を納めた。「白い小箱」は水、非常食、防寒シートなど帰宅困難時用の備蓄品を入れた段

ボール箱で、災害に備えた個人備蓄の推進を図ろうと四日市市の日本非常食推進機構(古谷賢治代表)が販売している。箱詰め作業と納品を県内の障害者就労支援施設などに依頼しており、社会福祉の趣旨に賛同した高田学苑が保護者会費で一人一箱の購

入を決めた。この日は朝から津や松阪の四事業所の通所者やスタッフを訪れ、「災害用備蓄食品」と書かれた箱を台車に積み上げ倉庫に運んだ。古谷代表によると、箱の中身は高田学苑の要望に合わせており、一箱二千三百九十円のうち五十円が施設に

支払われるという。五百七十個を納品した松阪市の「生活介護サービスあゆか」の飯田あゆみ施設長は「作業を通じて仕事のやりがいを意識し、納品に来ることで社会とのつながりを意識できる」と意義を話した。高田学苑では今後も継続して購入する予定で、河北浩峰事務局長は「次の世代の若者に、学校ぐるみで支援していくという意識を持たせたい」と話していた。



災害用備蓄品「白い小箱」を納品する施設通所者ら。津市大里窪田町の高田学苑で。